



熱心な指導に聞き入る子どもたち

基礎から学び上達 小学生スキー教室

1月8日、9日の両日、町スポーツ協会主催の小学生スキー教室が平庭高原スキー場で開催され、17人が参加しました。

初級クラスはスキーの履き方を覚えるところからスタート。低学年の児童は、最初は平地を歩くのにも苦戦していましたが、指導員のアドバイスでみるみる上達していました。また、中級と上級のクラスでは、急斜面のターンなどより高度な技術を習得しようと練習に励み、2日目には多くの子どもたちがゲレンデをさっそうと滑り降りていました。

小学生カルタ大会 正月の遊びを体験

1月11日、公民館の子ども体験教室で「小学生カルタ大会」が開催され、18人が参加しました。

試合は1チーム3人のトーナメント方式で行われ、子どもたちは札を真剣に見つめながら読み手の声に耳を澄ませていました。時折、読み手の引っかけでお手つきをしまい、その度に子どもたちは盛り上がっていました。

本地陽土さん(葛巻小5年)は、「久しぶりにカルタをし、みんな強くておもしろかった」と話し、正月遊びを楽しんでいました。



目を凝らして札を探す子どもたち



6年生の発表を聞き意見を出し合う児童

町の将来を考える 葛小6年生が発表

葛巻小学校(佐々木美江子校長、児童102人)で12月21日、6年生の児童による総合的な学習の発表会が行われました。

6年生は「ふるさと葛巻町の未来を考える」をテーマに、町民にインタビューしながら町の魅力や課題を調べました。発表会では、班ごとにまとめた内容をタブレットで下級生に説明。児童たちは6年生の発表をもとに「くずまき鍋の種類をもっと増やす」「きれいな公園やみんなが集まれる場所をつくる」など、子どもの視点でまちづくりの意見を出し合っていました。

冬の夜空を彩る花火 商工会青年部が企画

商工会青年部(神谷尚宏部長)は12月24日、葛巻小学校校庭で花火を打ち上げました。

約5分間打ち上げられた花火は、冬の夜空を美しく彩り、会場に集まった人々からは歓声が上がりました。神谷部長は「イベントの中止が続いていたので、花火を上げて地域の人に喜んでほしかった。これからも町民に楽しんでもらえるよう活動していきたい」と話していました。山下茜さん(葛巻高1年)は「花火を見たのは久しぶり。とてもきれいで、見るのができて嬉しかったです。」と感動した様子でした。



真冬の空に打ち上げられた花火



的のクップ(ピンクの角片)を狙う選手

新種目クップに挑戦 町総体後期競技開催

町民総合体育大会後期競技は1月16日、社会体育館で開催され、各地区体育振興会の選手が新種目「クップ」で競い合いました。

スウェーデン発祥のクップは、丸棒や角片を用いた的あてゲームで、年齢や体力に関係なく誰でも楽しめる競技として、町スポーツ推進委員らが提案し取り入れました。初めてクップに挑戦した江刈A地区体育振興会の下道武久さん(車門)は「競技に慣れるまで時間がかかったが、チームメイトと協力して和気あいあいとできた」と話し、クップの楽しさを味わった様子でした。



ゴールを狙う葛巻ミニバス男子チーム(緑のユニフォーム)

感謝を胸にプレー ミニバス交流大会

第14回ミニバスケットボールウインターフェスティバルinくずまきが12月25日、社会体育館で開催されました。

大会には近隣市町村と青森県から14チームが参加し、選手たちは仲間と声を掛け合いながら、素早いドリブルやパスをつないでゴールを狙い、白熱した試合を繰り広げていました。葛巻ミニバスクラブの山口景進さん(葛巻小5年)は「去年は試合ができなかったのですが、今年は大人の人たちが僕たちのために大会を開いてくれて嬉しい」と感謝を胸に全力でプレーしていました。